

■ **ガンマ線の分解能が悪く、ピークの形状が低エネルギーまたは高エネルギー側に裾を引いた形状になっている。**

FAQ No. : FAQ1110-007	DOC Rev. : 1.0	公開日 : 2008/12/12
対象 MCA	MCA7600	
キーワード	MCA7600、分解能、Preamp-TC	

【ご注意】

- ・この文書は、お客様の所有される環境で発生する可能性のある事象に対する一般的な対応策を記述しております。
- ・特定の環境では対応策が適当ではない場合も予想されます。
- ・対応策に関して弊社が保証あるいはサポートを付加するものではありません。

症状	
ガンマ線の分解能が悪く、ピークの形状が低エネルギー側または高エネルギー側に裾を引いた形状になっている	
原因	対策
Preamp-TC (プリアンプ時定数は従来のポールゼロ調整に相当)の調整が不十分な可能性がある (DPHA ボード使用時)。	[H/W Setup]、[DPHA]を順にクリックし、{DPHA 調整ボックス}を表示させ、[Adjust]をクリックし、内蔵 DSO によりフィルタ出力波形を観察しながら Preamp-TC を調整します。 通常は検出器上に Co-60 をかざし、AUTO Start で調整します。それでも分解能が悪い場合は弊社 CS 課にご相談ください。 (低エネルギー側に裾を引く場合は数値を小さく、逆に高エネルギー側に裾を引く場合は数値を大きくします。)

(注)表中の[xxxx]はアイコンを、{xxxx}はダイアログボックスを表します。